

特集記事

Fw:東北 Fan Meeting 東北暮らし発見塾（陸前高田校）～地域と関わる暮らしの楽しみ方

シェア Twitter

投稿日:2022年9月6日 カテゴリ:Fw:東北FanMeeting

Fw:東北 Fan Meeting 東北暮らし発見塾（陸前高田校）～地域と関わる暮らしの楽しみ方イベントレポート



東北への移住をテーマとした「東北暮らし発見塾」、今回は「陸前高田校」として、陸前高田市を取り上げ、市長や移住者の話が聞けるオンラインイベントを開催しました。

地域と移住者で新しい協働を生み出し、アツイドリに関わる町として、市長や移住者のみなさんが感じている陸前高田市の面白さはどこにあるのか。本イベントでは、戸羽太市長が地域の魅力について参加者のみなさんにへん語りかけるほか、移住者たちの実体験に基づく生の声などを聞かだしながら、参加者のみなさん同士で意見交換する場となりました。

お招きする移住者として、精密機器メーカーの間伐塾から移住により市民交流の活動をはじめた山本健太さん（福岡県田川市出身）、結婚を機に移住して地域でのコミュニケーション活動に従事している山本ひろみさん（長崎県大村市出身）、大正時代からの隣りで陸前高田市に移住し、防災伝承事業のディレクターを務める久保玲奈さん（東京都出身）、サラリーマンから漁師に転職し、牡蠣養殖やカマメ漁に取り組んでいる佐々木快昌さん（岩手県久慈市出身）、そして、移住促進のコーディネーターとして、昨年のFw:東北 Fan Meetingに登壇した多勢瞳（旧姓・高橋）さんもリピート登壇し、それぞれの移住体験から生の声をお伝えいただきました。

また、「社会や環境がよくなつて、そしておもしろい」をテーマとした未来をつくるSDGsマガジン「ソフトコト」との連動企画として、同誌の指出編集長を迎、陸前高田市への移住をリアルに掘り下げました。

インプットトーク

①陸前高田市長による地域の魅力・取り組み紹介

戸羽太氏（陸前高田市長）



陸前高田市戸羽市長から地域の魅力・取り組みをお話いただきました。

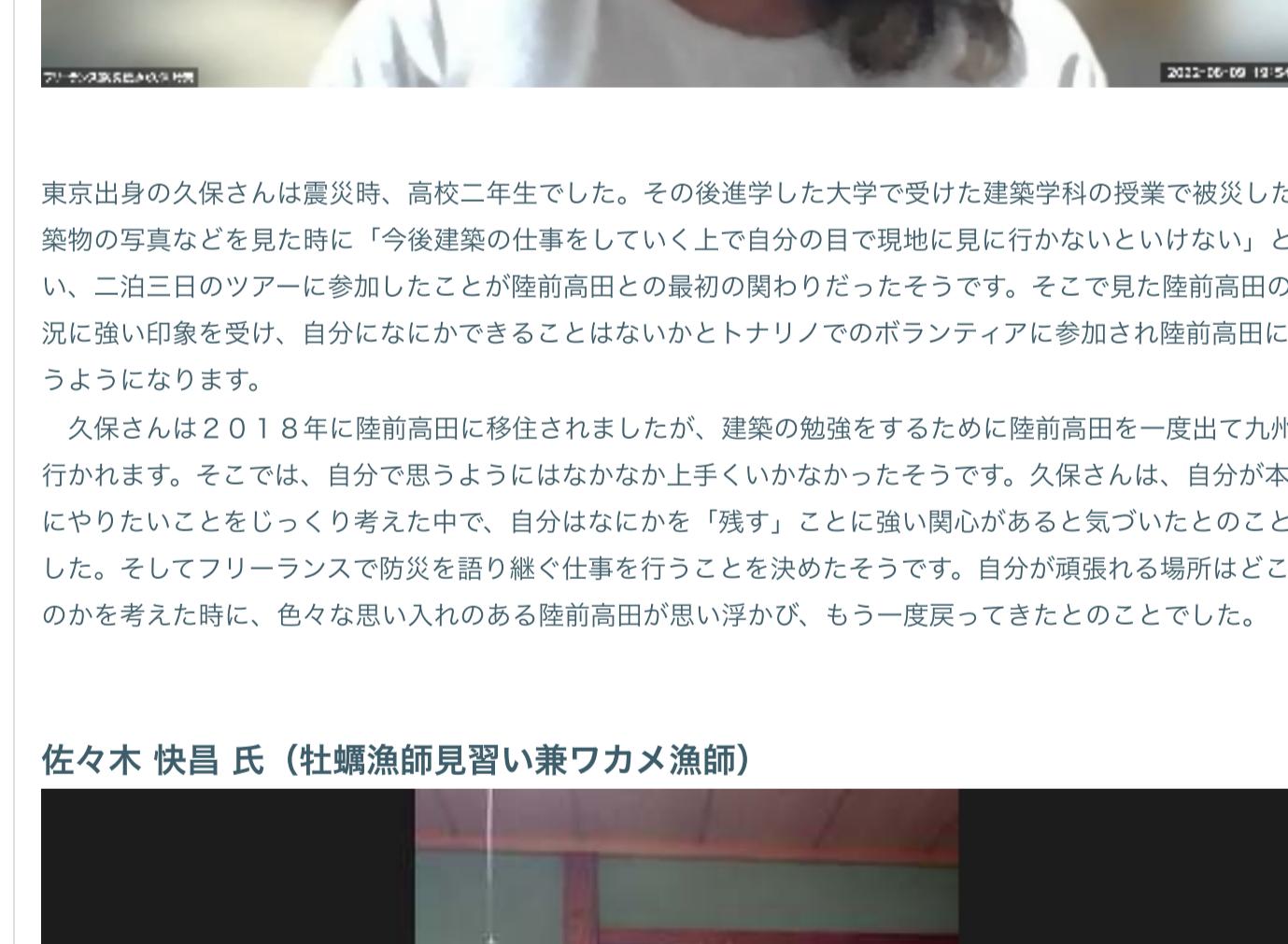
震災支援を機に、様々な方々と知り合い、今も継続的に交流が続いていることが自分たちの地域の一番の特徴ではあるか、感じているそうです。交流人口の拡大として、愛知県名古屋市、佐賀県武雄市、米国カリフォルニア州セントラルシティ、シンガポールなどと国内外で定期的に交流が行われているとのことです。

また、新しいものへのチャレンジと陸前高田市の人良さをどのように残せるか、両立を目指してきたそうです。取り組みの一つとして「ノーマライゼーション」という言葉のいらないまちの実現を目指し、真の共生社会を作りたい、と思いを語ってくださいました。陸前高田の一次産業について、取る漁業ではなく「育てる漁業」を行っている中、最高品質の牡蠣や陸前高田にしかない養殖技術のあるエゾシカゲ貝、潮風を受けながら栽培するミ崎りんご等が紹介されました。

最後に市長は「私自身も移住者ですが、外から来た人がしっかり地域の皆さんに受け入れて頂いていると思っています。移住を考えている方は、自分は地域に受け入れて貰えるだろうか、という心配があるかもしれません、陸前高田を理解して少しでも好きになっていただけだと思います」とコメントしてくださいました。

②市長と指出氏との対談

指出一正氏（ソフトコト編集長）



指出さんは、ノーマライゼーション共生社会について、次の世界のステップとして、誰もが幸せに生きることがとても大事になるので、その基盤が陸前高田で作られているとひしむと感じたとのことです。

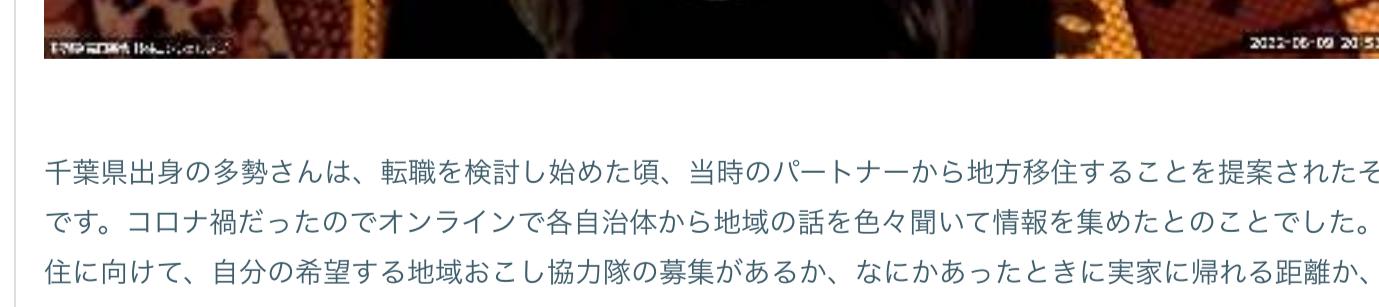
市長はノーマライゼーションについて、自分自身の立場では「障害のある人に対して手を差し伸べようという想いはあるけど限元で止まっている人が多い」と感じていて、せめて田舎の町では障害のある人が自分自身で生きられる場所が必要だとずっと思っていたとのことです。今は「きょうざれん」（日本の障害のある人に対する支援をする事業所の連絡会）の全国大会でも市民の協力が沢山見られる等、市民の理解を頂いていると感じているそうです。

指出さんは、陸前高田とソーシャルビジネスについて、陸前高田で「育てる漁業」が広がっていることはまさにソーシャルビジネスであり、第一次産業は社会的課題を解決するためにこれから伸びていく可能性に満ち溢れている分野で、新しい視点でDXや福祉などを掛け合わせる等、元々あるものとのように広げていくかが大切だと指摘されました。

市長は、東北は寒くて厳しいというイメージを持たれるが、夏の海水浴場やけんか七夕まつり、三陸花火大会など青空があって海があって笑顔がある。移住してくれる若い人たちについても、スマートライフで人間らしく生きている、一方でしっかり組織をつくり高齢者や相手の立場に立って色々なことを考えてくれている感じているとのことです。

移住経験・支援者の経験談

山本健太氏（一般社団法人トナリノ）

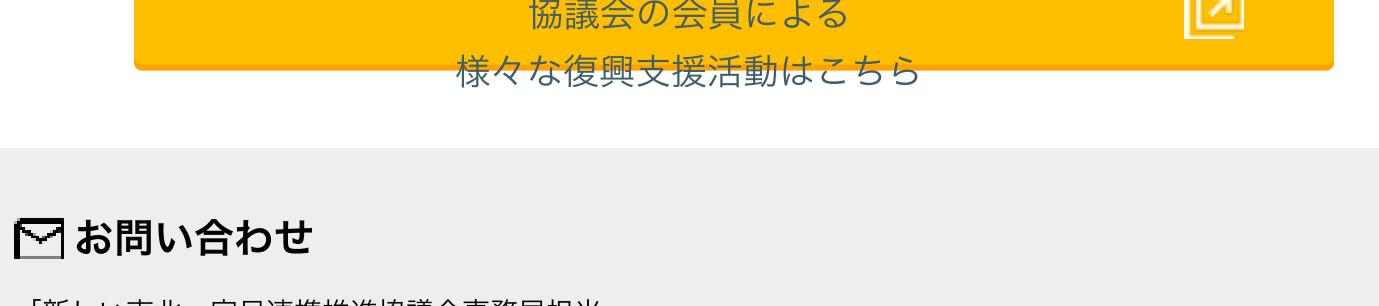


山本さんは、福岡県出身の山本さんは、精密機器メーカー就職後に東日本大震災を経験されました。山本さんはずっと機械と向き合う仕事をされていましたが、無機物より有機物とコミュニケーションがやりたいと思っていたそうですが、震災で倒れた建物の瓦礫を手で運ぶなど見えた時、「今後瓦礫の生産で、瓦礫を運ぶ作業をする」という想いが芽生えました。そこで、陸前高田の瓦礫を運ぶ作業を手がけたのです。

山本さんは、震災後は中断されてしまっていた就職活動に参加されました。震災で手を差し伸べる距離が、人をつなぐ等の経験をきっかけに陸前高田の方と知り合い、2012年に移住されて今11年目とのことです。

多勢瞳さんは、陸前高田で漁業をやっていた。ボランティアで漁師の手で運んでいた牡蠣を販売していました。現在は独立してカマメ漁を営んでいます。

久保玲奈氏（フリーランス）



久保玲奈さんは、震災後は中止になってしまった就職活動に参加されました。震災で手を差し伸べる距離が、人をつなぐ等の経験をきっかけに陸前高田の方と知り合い、2012年に移住されて今11年目とのことです。

多勢瞳さんは、震災後は中止になってしまった就職活動に参加されました。震災で手を差し伸べる距離が、人をつなぐ等の経験をきっかけに陸前高田の方と知り合い、2012年に移住されて今11年目とのことです。

参考リンク

・岩手県陸前高田市

・一般社団法人トナリノ

・特定非営利活動法人高田暮合

・特定非営利活動法人トナリノ

・福岡市復興応援会

・福